高 野芳雄 君

神

島

辰

雄

君

作 作 歌 曲

茫々はる 曙光になっ 高 鳥 な あ 石狩原頭美の香に酔えばいしかりげんとうびかり あ حَ りあふるる若人の血 の霊 輝く黎明告ぐる か に 緑に炎え れ 0 地に ゃ

鐘ね を撞かばや

石いしかり 野ゃせい を聴き 一の律は 片に友よ 佇 が ベ の秘奥を求め 6

生命のち 寒風荒 楡りん ぞまたたき青春 に洩れたる四寮の び て吹雪吹 Ś 夜ょ

燭光り ŧ

Íυ

の

黙だし

に

熱せる入陽

は沈み

の歩みを運ぶ夕宵は

エ ル

4

の繁みの

が梢透か

7

ああ 灯累りて永遠 籠められ 其を 0 しかな 灯ほ か げ いに霊と血 (に 輝<sup>かがや</sup> 潮ぉ 0

霊ぃ 生ぃ 気き 命ょ

をば疾く開け放

ち

、吸はずや の窓 夕映流るる黄色の彩ゆふばえなが

河が順が は沈ず ・の際涯 野は 8 めど彼方は は尽せぬい によし や吾等で なれ るか ば Ó

昔かし を偲べば吾 五. 等が 寮が

Ć 児じ は